

小児の気管支喘息について

堀越医院

院長 堀越珠樹 先生

アレルギー性疾患（アトピー性皮膚炎、花粉症、気管支喘息など）は、遺伝的素因と環境素因が重なる時に発病することが多いといわれています。

気管支喘息の特徴である発作の反復を抑えるためには、①発作時の治療、②非発作時の治療、次に起こるかもしれない発作を予防し気道の過敏性と肺機能を正常に近い状態（0レベル）で2～3年維持すること、③生活環境の整備が大事です。

アレルゲンを取除くために、（1）動物（猫・犬・ハムスター等）を飼わない。（2）目の細かいフィルターの掃除機を使い居間、寝室、枕、布団、カーテン等を良く掃除する。部屋には、物をたくさん置かないようにし、床は絨毯は敷かず板張りフローリングが良いと思います。喘息の好発時期には集中して掃除をして下さい。（3）花火、タバコ等の煙は喘息発作を誘発することが多いので注意して下さい。

気管支喘息の症状はアレルギー反応が一定の閾値を越えないと発現しないことがあり外から見ると治ったように見えますが、アレルギー反応は持続して起こっています。

小児喘息の約60%が思春期までに治癒し、残り40%が成人期へ持ち越します。

喘息の治療は、本人の喘息を絶対克服するという強い意志と家族の生活環境整備への協力、医療スタッフとの間の信頼関係が大事です。

中等症以上のアトピー性皮膚炎の約40%が幼児期までに気管支喘息を併発するといわれているため、早期に適切な継続した治療を受けることが必要です。